

平成 17 年度 医学部 教室業績集（追加）目次

[解剖学教室（I）](#) …… 2

[救急医学教室](#) …… 3

解剖学教室（Ⅰ）

平成 17 年度業績

著 書

1. 松村讓兒ほか：平成 18 年度中学校用新編新しい科学．三浦登，岡村定矩編．東京，東京書籍，2005.

救急医学教室

Ⅲ. 著書

——— 平成 16 年度業績追加

1. 萩原章嘉：経カテーテル止血法．総合臨床 53（増刊）：765-768, 2004.

——— 平成 17 年度業績追加

1. 長濱誉佳，山口芳裕，島崎修次：プレホスピタルケアの重要性．臨床と研究 82（4）：4-7, 2005.
2. 島崎修次：急性薬物中毒－新たなる診断治療法の展開－エディトリアル．カレントセラピー 23（5）：7, 2005.
3. 井上哲也，松田剛明，山口芳裕，村田厚夫，島崎修次：自然毒，乱用薬物による中毒．カレントセラピー 23（5）：83-89, 2005.
4. 村田厚夫¹，和田貴子（¹福岡和白病院）：体温異状とその対策．救急医学 29（5）：559-563, 2005.
5. 長濱誉佳，山口芳裕：処置．救急医学 29（6）：677-680, 2005.
6. 島崎修次：救急救命士と救急医の連携の将来．スポーツ・システム講座 7 救急救命士・病院までの主役達－救急救命士教育の在り方－ 7-18, 2005.
7. 山口芳裕：START．救急医学 29（4）：492, 2005.
8. 萩原章嘉，島崎修次：救急救命士の業務と医師のかかわり－メディカル・コントロール体制－．カレントセラピー 23（7）：73-78, 2005.
9. 島崎修次，田中秀治¹，安田康晴¹（¹国士舘大学救急医学）：AED の出現と心肺蘇生法の変革．Heart & Wellness 臨床 ME インフォメーション 19：1-5, 2005.
10. 梅垣修，島崎修次：印象記 第 33 回日本救急医学会総会・学術集会．臨床麻酔 29（12）：1985-1986, 2005.
11. 後藤英昭，山口芳裕，島崎修次：ショックの鑑別．総合臨床 54（10）：2579-2582, 2005.
12. 後藤英昭：上部消化管出血に対する治療戦略．消化器内視鏡 17（11）：1992-1995, 2005.
13. 八木橋巖，山口芳裕，島崎修次：救急医療のリスクマネジメント．外科治療 93（3）：283-287, 2005.
14. 島崎修次，山口芳裕：日本の救急医療の現状と将来．救急医療ジャーナル 14（1）：8-11, 2006.

15. 島崎修次：巻頭言－危機にある外傷医学－. 日本外傷学会雑誌 20：1, 2006.

IV. その他

——— 平成 17 年度業績追加

1. 島崎修次（分担研究者）：日本救急医学会における立場と課題. 平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業報告書「終末期医療の質の向上に関する研究」（主任研究者林謙治） p. 47-53, 2006.
2. 島崎修次（主任研究者）：厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業 救命救急センターにおける避け得た外傷死の実態とその要因調査のための研究 平成 15 年度～17 年度総合研究報告書. 2006 年 3 月.